令和８年度　指定管理施設の管理運営に関する月次評価について

施設所管課名：民生局福祉こども部障害福祉課

１　施設概要

施設名称	福祉援護センターかがみ田苑
指定管理者名	社会福祉法人　海風会
指定期間	令和７年（2025 年）４月１日～令和 12 年（2030 年）３月 31 日（５年間）

２　月次評価

評価月	評価
４月	毎日、朝と夕方に行うショートミーティングを通じて職員間の情報共有が密に行われ、利用者に寄り添った支援が実践されていた。令和７年度の一年間の運営を通じた事例報告会では、利用者支援の全般的な改善が報告され、専門的な支援の実践によるものと大いに評価できる。送迎サービスにあたっては、運転手のアルコールチェック制度を導入し、安全管理の向上にも取り組んでいた。また、近隣住民との良好な関係性も構築されており、今後ますますの発展を期待したい。
５月	給食委員会にて給食の提供について話し合いが行われ、食事提供時間を２段階に設定することで、温かい食事や人気のある麺類をのびずに提供できるようになった。給食委員会から数日後には実行に移すことができており、委託業者との連携や利用者目線での支援が提供されている。また、外部の利用者やスタッフによる支援実践指導により、支援の技術向上に努める姿勢が評価できる。管理者と支援員等との面談を実施し、良好な人間関係や職場風土の醸成にも取組んでいた。
６月	地震を想定した避難訓練の実施にあたっては、利用者 29 名に加え職員 20 名が参加し、施設敷地内駐車場への避難を実施したところ、目標時間の 15 分を大幅に上回り、10 分以内での避難を完了したということであったが、今後も災害時等に備えた利用者の安全確保に向けた継続的な取組みに期待したい。 また、訓練の実施記録の作成にあたっては、生成 AI を活用した業務の効率化にも取組み、記録作業にかかる時間と労力の削減により、利用者支援等の業務の充実に生かせている点が評価できる。 さらに、給食の提供にあたっては、給食委員会の実施に加え、保護者向け試食会を２回実施し、保護者の意見を直接聴取しながら利用者満足度の向上に取組む姿勢も評価できる。

7月	引き続き専門家チームによる研修を実施し、利用者の特性に合わせた専門的な支援に取組んでおり、前年度に比べ活動の幅が広がっている。これは指定管理期間の初年度である昨年度において、着実に基盤を整えた成果であると評価できる。 また、感染症対策研修を実施するとともに、猛暑日が続く中、熱中症警戒アラートや光化学スモッグ注意報の発令に十分注意を払い、発令時には屋外での活動を控えるなど、利用者や職員の健康被害などのリスクにも配慮した運営がなされていた。
8月	活動支援において、利用者の特性に合わせた支援が行われ、利用者一人ひとりが集中して作業に取り組む様子が見受けられた。また、１階と２階の利用者が合同で活動する時間を設けることで、場所の変化や集団行動に柔軟に対応できるよう支援がなされていた。さらに、今年度もプール活動を実施し、利用者から好評を得ている。他事業所との連携を積極的に行い、次の事業所への円滑な移行に向けての支援も行われており、日々の活動の成果が移行への取り組みをさらに推進しているものと評価できる。引き続き、利用者の意向を尊重した支援に期待したい。
9月	近年、台風や大雨が増加する中、内閣府では警戒レベル相当情報の体系整理や名称変更を反映し、避難情報に関するガイドラインを令和８年３月に改定しているが、これを踏まえ、警報発令時における臨時閉所の取扱いや運用方法の見直しを行うとともに、利用者や関係事業所への周知に努めていた。当施設の敷地の一部は、土砂災害警戒特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されていることからも、今後も利用者や職員の安全を第一に、危機管理意識を持って施設運営が継続されることを期待したい。 また、支援員等による他事業所への見学なども実施しており、他事業所とも積極的に連携しながら利用者の地域移行に向けて取り組んでいる姿勢が評価できる。